

クリテイク10

特集

戦争状態論

永久戦争のために ● 上野俊

身体感覚と倫理 ● 小食利丸

政治的なものの再開 ● 田崎英明

原爆被害と十五年戦争 ● 中島吉弘

交戦と人間の闘争 ● C・ルウォール

漢の国の戦争 ● 小形宏宏

WORDS / WAR

機式の戦争 ● 八坂はじめ

漢五倫美字の超上昇 ● 國井雄英

思考しえぬものの構築としての政治 ● E・ラクロワ

戦争したいと叫びの直前 ● 川港吉弘

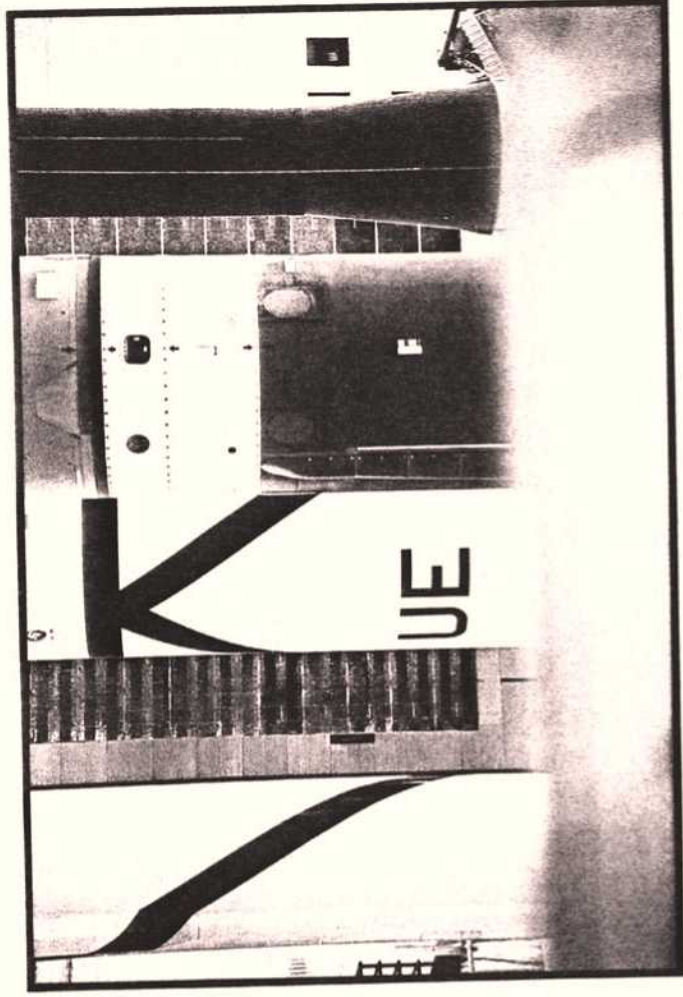
評議 ● マイケル・ライアン

● P・A・スワンプ

書評 ● 浅見宏彦 ● 金塚真文

● 深谷考 ● 高島直之

連載 ● 風間研 ● 小林昌広



ジャンクをめぐる
衛生／狼狽の戦争



「チエルフイリ記念椅子」
トム・ティクソン

ダン建築があり、それらの目録を管理する電
脳ファイルがある。衛生／狼狽の戦争が続い
ているのだ
（F）

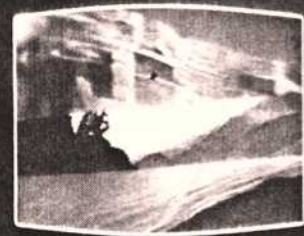
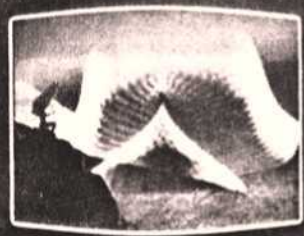


〔歴史改竄〕
芸術家のテクニク
としての歴史改竄

「歴史改竄」という言葉には真実の史実を暗
の史実に塗り変えてしまうといったイメージ
が付きまといっている。しかし現代のような情

報化社会においては大衆の記憶を一時にして
白紙状態へと還元し全く別の歴史を刷り込む
ことは不可能であり、為政者達も近代以前と
は異なる手順で「歴史改竄」を使用するしか
ない。例えば「歴史改竄」の焦点を史実その
ものの真偽から改竄を行使する「仕ぐさ」へ
と移行させる手法がある。そもそも「歴史改
竄」にはそれを為政者が民衆にゴリ押しする
暴力性のデモンストレーションとしての側面

があるが現代においては暴力だけでなく技術
のデモンストレーションとしても使用されつ
つある。つまり改竄行為は為政者だけにとつ
てのテクニクではなくなり、例えば芸術家
による発展的なテクニクとしてさえ行使さ
れるようになったのだ。J・ホイイスが一九八
三年「ドクメンター」でロシア皇帝冠をウサ
ギの形に鋳直したパワオーマシスは王冠とい
う物象化された歴史を平和の象徴（「ウサ
ギ」へと変形することによりウツイエトの軍
事力優先政策を批判したものだ）また一
九八七年ミュンスタールの野外彫刻展でJ・



〔ART OF MEMORY〕ウッディ・
ヴァスルカ（写真提供・SCAN）



〔ヴァスルカのビデオ〕
最新のテクノロジーで変換
合成して歴史を組替える

ウッディ・ヴァスルカは、七十年代には
「ザ・ヴァスルカ・イメージングシステム」
というコンピュータシステムを自ら開発す

るなどして、極めてテクニカルな抽象的作品
を制作していたビデオ・アーティストだった
が、八十年代に入って作風をがらりと変え、
二十世紀の政治的テーマをオペラティックに
映像化する作業を始めた。

八三年から制作され続けいまだ完結しない
「ART OF MEMORY」は、過去の戦
争の記録フィルムを、最新のテクノロジーで
変換、合成して、歴史の組替えを試みよう
とした作品で、アートとテクノロジーの高次元
での合体による、現時点での一つの結論とも
いえる傑作だ
（K2）

WORD/WAR
IS
OVER?